

# 藤河内溪谷周辺地域の自然景観

## 随所に特徴的な地形が見られる藤河内溪谷

藤河内溪谷には地質構造のちがいによる特徴的な地形が随所に見られます。立松谷の藤河内橋から下流叶合までの区間は、花崗岩類が典型的に分布しており、溪谷のさまざまな地形現象が集約された地域です。節理が鱗状に剥がれた千枚平をはじめ、甌穴の成長したひょうたん淵、線状に侵食された大樋、小樋などは典型的な地形です。



節理に沿う典型的な甌穴のひょうたん淵（藤河内溪谷）

## 急峻な地形、硬い岩石がもたらす膨大な洪水量



豪雨時には洪水流をもたらす溪流（叶合）

藤河内溪谷は地形が急峻で地質が古くて硬い堆積岩のため、降雨の地下浸透量は少なく大部分が表面流出となるので、豪雨の際の洪水流は激増します。溪谷周辺の森林の保全は洪水流を少しでもやわらげる力になります。



転石の隙間を流れる河川水（鋸切谷）

## 流域地質の違いが示す水質の特徴

河川水の水質は流域の地質構造により特徴づけられます。藤河内溪谷は花崗岩地帯のため化学成分の濃度が極めてうすく、一方、木浦内地域の河川では石灰岩地帯のため化学成分量は、源流域の河川としては濃度が高いようです。

## 溪谷や岩場に見られる特殊な植物

藤河内溪谷地域は落差の大きい急峻な溪谷と、急崖をつくる岩場が各所に見られる特徴的な地形の地域です。溪谷にはナチシダ、ヌリトラノオ、クモンスシダなどのシダ類、岩場にはツクシアケボノツツジ、フジツツジ、ヒカゲツツジなどのツツジ類が多く見られます。全域でシダ植物20科130種、種子植物105科518種、合わせて121科648種の植物が生育しています。



岩場に咲くツクシアケボノツツジ（夏木山）



稜線部の岩角地に立ち並ぶヒメコマツ林（夏木山）

## 垂直岩面に着生するイワタケ群落

夏木山や小鋸の山頂の垂直に近い岩面に葉状地衣類のイワタケが群落をつくり、良好な状態で生育しています。当地を含めて九州では祖母山とくじゅう山群の3地域で分布が確認されている極めてまれな植物群落です。また夏木山の東側尾根の風通しのよいブナ林内の巨石上に、ヒメイワタケ群落も見つけることができました。



岩面に着生するイワタケ群落（小鋸）

